

仕事で大変なこと

この仕事が好きなので、大変
と思ったことはないです。
強いて言えば、私の場合、勤
め人から個人事業主になっ
たので、経理を頑張って覚え
ました。最初は、請求書の書き
方も分かりませんでした。

この仕事を始めたのは

自分が食べる物は自分で獲り
たい、という思いがあったか
らです。
長年、都会で看護師をしてい
ましたが、自然の中で働きた
いと思い、猟師の道でやっ
てみようと思えました。



猟師 / 食肉処理業者

仕事のやりがい

鉄砲は肉を手に入れるための手段。「見つけた！そっちに
行った」「来た来た来た！」と猟友会でチームを組んで獲物
を捕まえるのは、楽しいです。でも、鉄砲を撃つことだけ
でなく、山の景色や狩猟の過程も楽しみの1つですよ。
栄養価の高いジビエのおいしさを人にちゃんと伝えられた
時は、とてもうれしいです。
狩猟も食肉処理業も、自然や命の大切さを感じられる仕事
だと思えます。

木原 由紀恵さん
下関市出身(Uターン移住者)

移住編 仕事図鑑

このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介して
います。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。

命のやりとり、最前線
下関では11月に狩猟解禁
され、本格的な狩猟シーズン。
野生動物が残したふんや足跡、
泥の痕跡から、まだ見ぬ獲物
の姿や行動を想像します。
毎朝、捕獲用の罠を見回り
土日は山で狩りを行い、鉄砲
で野生動物の動きを止めます。
そして刃物で一突き、1頭の
鹿が生涯を終えます。
「依頼者の農家さんからすれ
ば、駆除して終わりでも良いか
もしれませんが、品質の良い
衛生的な肉を確保して、それ
をお客さまに提供することも
私の仕事。鹿をかわいそうと
思う気持ちは大切なことです。
でも、命をいただくことで私
たちは生きています」
森と人里の瀬戸際で
ずっと闘うだけなのか
「猟師になって5年。それで
も野生動物を見かけることが
増え、人里が山に飲まれてい
く実感はあります。人里には、
栄養豊富な作物があり、それ
を食べた野生動物の個体数は
増える。悪循環が生まれてい
ます。ただ駆除するだけでは
なくて、野生動物が森で過ご
せるだけの環境を作つてあげ
たいです。私もこの菊川の景
色を守りたいです」



新鮮で良質な部位は食用に。
細かく硬い部位はペット用に。
無駄なく命をいただきます。



センシティブな内容ですが、子どもたちに知
ってもらいたい。自然環境に目を向けやすく
なるし、いろんな世界を広げてほしいです。

